

群馬県立藤岡工業高等学校 学校評価一覧表 ①（令和4年度版）

（様式1）

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 工業高校として特色ある教育活動を行っていますか。	① くくり募集、学科・コース選択制などは、本校独自の特色であると感じている生徒が80%以上である。	・ガイダンスや工業技術基礎の授業などを通して、生徒一人ひとりに合った学科・コース選択ができるよう指導する。	A	A	・工業技術基礎や各科での授業をとおして、学科・コースの特長・将来を見据えた学科・コースの選択ができるよう継続的な声かけ等を行う。	A	A	・1年次の工業技術基礎や2年次からの各科実習等の授業をとおして、学科・コース特有の学びができるよう継続的な授業改善を行う。
		② ものづくり教育（工業科目の学習や実習）を通して、実践的な技能・技術が身についていると実感している生徒が80%以上である。	・基礎、基本をしっかりと身につけた上で、各学科の特徴を活かせるよう指導する。 ・課題研究への積極的な取り組みや学習成果発表会などを通して、生徒の満足度を高める。	A	A	・理論と実習での技能・技術の結びつきを実感できるよう、内容の精査を行う。 ・課題研究や学習成果発表会において、生徒が活躍できる機会を増やし、充実感や自信をもたせる。	A	A	各種競技会、高校生ものづくりコンテストへの積極的な参加や学習成果発表会などとおして、ものづくりや研究部の活動に対する生徒の意識を高めていく。
		③ 環境に配慮した活動やボランティア活動に参加することで、地域社会や環境保全への貢献を意識している生徒が80%以上である。	・整美委員会や清掃活動を通した3R活動の推進、環境ボランティア活動への参加推奨。 ・地域との連携を図り、信頼され期待される学校づくりに努める。	B	B	・日常生活において自身の周りでも無意識に環境に配慮した取り組みができるよう努める。 ・家庭内における取り組みや意識の共有も必要であると考える。 ・「藤工SDGsプログラム」への積極的な参加を促す。	B	B	・日常生活においてゴミの削減を意識し、簡易包装の商品を選択する事や食品のロスを減らすべく賞味期限における認識を改善するなど、身近なところから個々の取り組みを推進する。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 資格取得に挑戦し、卒業までに3つ以上の資格を取得している生徒が60%以上である。	・ジュニアマイスター顕彰制度や資格取得データベースの積極的な活用。 ・計画的な指導とともに、補習や個別指導を実施する。	A	B	・令和3年度卒業生は、58名の生徒が3つ以上の資格を取得している。 ・本年度もコロナ禍の中であったが全学年で21種類の資格延275名が合格している。来年度も努力を続けるよう務める。	A	B	・各学科で指導計画を立てて講習会等の指導を行って行く。 ・本年度もコロナ禍の中であったが全学年で21種類の資格延275名が合格している。来年度も努力を続けるよう務める。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤ 学習に積極的に取り組み、学習内容の基礎・基本が定着していると自己評価している生徒が80%以上である。	・職員相互の授業公開と見学、研修などを実施し、「分かりやすい授業」を展開する。 ・朝学習の取り組みを通した基礎学力の向上。 ・成績不振指導生徒に対する組織的な指導。	A	B	・課題研究などを通して、問題解決能力や自発的学習態度を養う。 ・成績不振者には、長期休業期間を活用した指導を確実に終了するよう支援して成績不振状態の早期解消を図り、学習意欲の向上を促す。 ・朝学習に継続して取り組むことができる工夫を各学年ごとに検討、実施していく。	C	B	・年々入学生徒の基礎学力レベルが変化しており、その正確な認知に基づき授業内容のアップデートを常に心がける。 ・学校側の「ここまで到達してほしい」という地点と、生徒等の「ここまで到達できて満足である」という地点に乖離があるため自己評価と外部アンケート結果に差が出ていると考えられる。今後も学校側の目標設定を下げることなく生徒の学力向上に務めていく。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥ 職員会議や学年・科会議において生徒に関する情報交換を月に2回以上実施するとともに、生徒とコミュニケーションを図りながら共通認識に基づく指導を行っている。	・定期的な各種会議における情報の共有。 ・各科、各分掌の協力と生徒への充実した支援。 ・教科担当者会議での共通理解と対応。	A	A	・共有した情報を諸課題の予防や解決に向け、共通理解を図る。 ・学校生活の中で積極的な声掛けを行い、コミュニケーションを取る。 ・必要な生徒には、特性に応じた個別支援と共通認識を図る。	A	B	・定期的な情報交換が実施できている。交換した情報が生きるよう全職員で共有していく。 ・指導方針を共通理解し、さまざまな教育活動をとし全職員で指導する。
		⑦ 安全管理・安全指導に努め、学校生活の全ての場面において安心して活動できていると感じている生徒が80%以上である。	・専門科目の実習や交通指導を通して安全教育を実施し、学校生活全般において自ら安全管理できる意識を醸成する。	A	A	・専門科目内での安全教育を授業や資格指導内でも継続的に行う。 ・交通安全教室やマナーアップ運動を通じ、定期的な意識向上を図る。	A	A	・工業科目授業や資格指導の中で安全教育を実施してきた。より意識を高めるために継続して行っていく。 ・交通安全意識の向上のため、校外で巡回指導も行っていく。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑧ 「学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に行っている」と認識している生徒が80%以上である。	・HRや集会での講話。 ・学期ごとにいじめアンケートを実施。 ・校内巡回等の実施と、日頃からの生徒観察、相談しやすい体制の整備。	A	B	・授業、HRなどを通じて生徒間の人間関係構築に努める。 ・アンケート後の個別面談実施と職員間での結果の共通理解を図る。 ・生徒観察、相談体制を充実させつつ、家庭との連携を充実させる。	A	B	・できる限り行事を実施する中で生徒間の人間関係構築をしやすい環境をつくるとともに、生徒観察や相談しやすい雰囲気作りを実行し、いじめの未然防止や早期発見・対応を実施する。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨ 1日の遅刻者数が10人以下である。	・健康に配慮した生活、自己管理の徹底。(感染症対策を含む) ・5分前登校の呼びかけ。 ・学期毎の遅刻指導の徹底。	C	B	・遅刻者数10人以下の達成率は74%であった。 ・遅刻生徒への声掛けや面談を行う。また、遅刻回数に応じて段階的な遅刻指導を行う。 ・家庭と連携を取り、共通理解のもと基本的生活習慣の確立を図る。	C	B	・遅刻者数は後半に増加し、達成率は52%となった。家庭との連携、協力をより密にするとともに、生活習慣の改善や意識の変容に向けた指導を行う。 ・学年や学科と連携した学校全体で統一した指導を行う。

Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑩ 「自己の生き方」と「職業選択」を関連させた進路指導を行っている、生徒の80%以上が評価している。	・自己理解と職業理解をテーマにした進路学習をLHRで実施する。 ・外部や内部講師による計画的な進路セミナーを実施する。	A	A	・3年間をととして系統的な進路学習の計画を立て、人間としての生き方やあり方、職業選択について考えさせる指導を継続する。	B	A	・3年間をととして系統的な進路学習の計画を立て、生徒がそれぞれに適した職業や進路選択について考えさせる指導を継続する。
		⑪ 進路ガイダンスのほか、1学年企業・大学見学、2学年就業体験、3学年進路面接などの進路関係行事が、役立ったと考えている生徒が80%以上である。	・各学年に適した進路行事と進路学習を計画し、実施する。 ・外部の事業者と連携し、生徒の進路選択に役立つ情報を提供する。	A	A	・いろいろな進路行事は、生徒、保護者、職員の8割程度が進路選択に役立つと答えているため、引き続き実効性のある行事を行っている。	A	A	・いろいろな進路関係行事は、生徒・保護者、職員の8割以上が進路選択に役立つと答えているため、引き続き実効性のある行事を導入していく。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑫ 進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が、80%以上である。	・LHRや進路行事で常に進路意識を持てるよう工夫する。 ・生徒への進路相談と情報提供を積極的に行う。	C	B	・生徒の8割以上は積極的に取り組んでいると答えているが、保護者および教員は6割程度台となっているため、回答への意識の違いが影響している。	C	B	・生徒の8割以上は積極的に取り組んでいると答えているが、教員側はそうのように感じていないため、生徒の取り組みを教員が理解できるよう工夫する。
		⑬ 生徒の卒業後の進路希望について理解している保護者が、80%以上である。	・進路希望調査を機会として生徒と保護者で進路相談が行えるようにする。 ・保護者にも上級学校のオープンキャンパス参加を促す。			・進路希望調査や三者面談をととして、引き続き生徒と保護者が進路に関して相互理解を深められるようにしていく。			・進路希望調査や三者面談をととして、引き続き生徒と保護者が進路に関して互いに理解を深められるようにしていく。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭ 家庭や地域社会の人々に学校の教育活動を理解してもらうため、「学校公開」を年3回実施している。	・一日体験入学、中学生ロボット競技大会、学習成果発表会の実施。	A		・中学生を対象とした一日体験入学の実施、ロボット競技大会の実施、製作講習会の実施、学習成果発表会等の積極的な案内等を行う。	A		・中学3年生を対象とした一日体験入学や、中学2年生を対象とした学校見学会などを通して、情報発信を継続的に行う。
		⑮ 学校行事や学校から発信される情報に、関心を持っている保護者が80%以上である。	・的確かつ迅速なホームページの更新により、最新の情報発信を心掛ける。	B		・学校行事の様子や学校からのお知らせ、各部活動の大会結果などを随時更新する。	B	A	・開かれた学校になるよう情報発信の方法をさらに工夫する。
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑯ ICTを活用して行われている授業や特別活動について、生徒の80%以上が満足している。	・授業改善委員会を通して、ICT機器の活用推進を図る。	A	A	・プロジェクトや1人1台端末などのICT機器を活用した学習指導を行う。	A	A	・学習指導において1人1台端末の活用を図るとともに、適切な利用を推進する。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑰ ICTを活用した通知やアンケートに、生徒・保護者の80%以上が満足している。	・オンラインによるアンケート調査や健康観察を実施する。	A	A	・ICTを生徒や保護者と学校の情報伝達等に活用し、業務改善を行う。	B	A	・今後も、ICTを生徒や保護者と学校の情報伝達等に活用し、業務改善に取り組む。

A	A	・3年間をととして系統的な進路学習の計画を立て、人間としての生き方やあり方、職業選択について考えさせる指導を継続する。	B	A	・3年間をととして系統的な進路学習の計画を立て、生徒がそれぞれに適した職業や進路選択について考えさせる指導を継続する。
A	A	・いろいろな進路行事は、生徒、保護者、職員の8割程度が進路選択に役立つと答えているため、引き続き実効性のある行事を行っている。	A	A	・いろいろな進路関係行事は、生徒・保護者、職員の8割以上が進路選択に役立つと答えているため、引き続き実効性のある行事を導入していく。
C	B	・生徒の8割以上は積極的に取り組んでいると答えているが、保護者および教員は6割程度台となっているため、回答への意識の違いが影響している。	C	B	・生徒の8割以上は積極的に取り組んでいると答えているが、教員側はそうのように感じていないため、生徒の取り組みを教員が理解できるよう工夫する。
		・進路希望調査や三者面談をととして、引き続き生徒と保護者が進路に関して相互理解を深められるようにしていく。			・進路希望調査や三者面談をととして、引き続き生徒と保護者が進路に関して互いに理解を深められるようにしていく。
A		・中学生を対象とした一日体験入学の実施、ロボット競技大会の実施、製作講習会の実施、学習成果発表会等の積極的な案内等を行う。	A		・中学3年生を対象とした一日体験入学や、中学2年生を対象とした学校見学会などを通して、情報発信を継続的に行う。
B		・学校行事の様子や学校からのお知らせ、各部活動の大会結果などを随時更新する。	B		・開かれた学校になるよう情報発信の方法をさらに工夫する。
A	A	・プロジェクトや1人1台端末などのICT機器を活用した学習指導を行う。	A	A	・学習指導において1人1台端末の活用を図るとともに、適切な利用を推進する。
A	A	・ICTを生徒や保護者と学校の情報伝達等に活用し、業務改善を行う。	B	A	・今後も、ICTを生徒や保護者と学校の情報伝達等に活用し、業務改善に取り組む。

